

# 令和3年度「日田市農業振興ビジョン」第1回推進委員会議事録

R3.6.4(金) 13:30~

庁議室

## 1. 開会（事務局）

## 2. 委嘱状交付（市長代理：農林振興部長）

各委員へ委嘱状の交付

## 3. 部長あいさつ（農林振興部長）

日田市農業ビジョンは、計画期間を平成29年度～令和9年度までの11年間としています。これまで、ビジョンに定めた3つの基本方針に基づき、農産物については日田梨をはじめとする本市の特産品の市場競争力の強化に努める一方で、中山間地の狭い耕地を活用した産直野菜の生産のほか、わさび・山椒などの栽培による農家所得の向上に取り組んできました。畜産については、施設整備や増頭等による経営規模の拡大を図りました。さらには農業の多面的機能を維持していくために基盤の整備をすすめるなど農村環境の保全に取り組んできたところです。

しかしながら、平成29年や令和2年の度重なる豪雨被害、生産者の高齢化、担い手の減少等による中山間地を中心とした耕作放棄地が増加など、集落機能や地域活力の低下が懸念されているのが現状です。また最新の2020年農林業センサスによると本市の農業経営体数は1,511で、5年前と比較すると531の減と4分の1がなくなっている状況です。これは大分県内でも同じような状況であり、今年の3月にはこの危機的状況からの脱出にむけた「農業の非常事態宣言」が発出されました。

こうした農業をとりまく厳しい状況をのりきって行くためには、より一層、生産・流通・消費を考えた総合的な取り組みを関係者の連携により推進していく必要があるのではないかと考えています。

この推進会議において、ビジョンに示したこれまでの取組を評価・検証し、見直すべき事項を抽出して、今後6年間の計画に反映してまいりたいと考えています。

## 4. 委員・事務局紹介

名簿順に自己紹介

<資料>

- ・次第
- ・資料1（日田市農業振興ビジョン推進委員会設置要綱）
- ・資料2（名簿）
- ・資料3（「日田市農業振興ビジョン」中間年における見直し・設定について）
- ・資料4（主要施策実績一覧表）

## 5. 委員長・副委員長選出

委員長 石井 照久委員

副委員長 原田 文利委員

## 6. 議題

### (1) ビジョン改定にあたって

(事務局)

資料3、4にて説明

## 意見集約

### 1)

農業を取り巻く情勢は色々変わってきてる状況でありますし、資料3ページにあります農業経営体の推移も減少している状況の中で、やはり今後の日田市の、農業の担い手の部分をどういう風に確保していくかというのが一番重要な課題ではないかと思っております。担い手があつてこそ様々な施策等がでてくるかと思しますので、農協も一緒になってやっていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

### 2)

先日県の農業の戦略会議に出席させていただきました。その中で、本日の資料にもありますけども県内の農業の現状は非常に厳しい状況であります。この5~6月にかけて農家のみなさんにアンケートをとり、7月にまとめて8月に中間発表、10月に最終という形で発表が決まっております。

この地区でもかなりの農家の方がアンケートを回答すると思いますが、この動きとビジョンの動きを合わせながらやっていくと、非常に効果があがるのではないかと思います。そういう形で私も出席させていただいておりますので、その動きを皆さんにお話ししながら進めていければと思いました。

### 3)

一つお願いしたいのは、自然保護の関係です。資料に出ておりましたように、水路等作る場合はもう少し、自然に配慮した形にさせていただけると助かると思っております。今は随分、コンクリートの水路になってしまつて、今後は見渡す限りコンクリートになってしまうのではないかと危惧しております。というのは、昔からいた生き物がほとんど絶滅状態になっておりますし、もし許されるなら、例えば市が補助などを出して、水路を整備する場合の条件に自然保護の観点を加えるなど、もう少し自然に優しい農業施設の整備を考えていただけると助かりますので宜しくお願いします。

#### 4)

事務局より「今後のビジョンの見直しの方向性」の説明の中で、国の方針の紹介がありました。私は3月の参議院予算委員会の資料をもっていますが、全くその通り合致しています。令和12年度にカロリーベースで45%、生産額ベースで75%を目標に設定しているということで、全く情報が早いと感動致しました。今コロナ禍で、言われていますのが食糧の安全保障という言葉が出てきています。コロナが出たから穀類と食糧の輸出をストップした国がだいぶある中で、安い食糧・穀類等、頼りにしていたら本当に日本人は食糧危機にあうのではないかと考えております。

国の目標を達成するために日田市で何ができるかを今後考えいかなければならないし、特に日田市においては平成24年に2度の豪雨、平成29年・昨年と豪雨災害があり、農地が大きく崩壊された中で、今年から国の方も田んぼダムという形で補助金も出すようにしております。このように農地の果たす役割、水田の果たす役割というのが見直されていってますので、日田市は中山間地が多い中で、効率の悪い水田等も、大事にしながらやっていかなければならないと考えております。

これから推進委員会がある中で、私の立場から色々意見を申しあげていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

#### 5)

先日、農業新聞の記事に九州の農業従事者の平均年齢という記事が書いてありました。九州各県は65歳くらいで、これに対してもかなり高いなという意識があったのですが大分県は71歳くらいでした。資料にあります農業経営体の推移をみましても25%程度減っておりますし今後の大分県の日田の農業を考える中では若い人の育成・就農が喫緊の課題と考えております。

そういったところで、SDGs持続可能な開発目標ということで新規就農者であったり新しく取り組みたい人に対するの出口戦略、所得をあげるなど、そういった取り組みも重要になってくるのではないかなと考えております。

なにより人が少ないので、親元就農含め、農業にかかわる人を増やして活性化していきける取り組みを考えていけたらなと思っておりますので宜しくお願い致します。

#### 6)

農業非常事態宣言の発出に伴い、県が立ち上げた戦略会議の中で、アンケート等進めております。その動きに併せてビジョンの改定をやっていただくというような形になるのかなと思っておりますが、今回、見せて頂いた資料の中で2点ほどお願いをしたいというのがございます。

まず1つ目が、資料4にビジョンの取組実績一覧表という形で成果があがった分のご紹介がございました。成果が上がった分はさらに進めていかないといけないと思う

のですが、成果が上がらなかった分もしっかり目をむけて、なぜ上がらなかったのか、どうやって改善・強化していくのか、しっかり方向性を出す必要があると思っております。

それに併せまして、12～14 ページに個別品目ごとの目標に対する進捗状況も、○がつかない分について、今後どうしていくのかというのもしっかり示していく必要があるのではないかと思います。是非検討していただければと思います。

## 7)

私も何点かございまして、まず、作物を生産する上で生産基盤が根底のものなのかと思っております。我々が実施する事業については、大規模な県営クラスでやるものから、団体営クラスでやるもの、あるいは多面的に実施するものなど多数ございまして、きめ細かな対応ができることになっておりますので、今後考えていく上では、その地域に合わせた基盤整備を採用していけたらと思います。中にはもう圃場整備が終わったということもあるのかもしれませんが、今後は、灌がい排水でありますとか、パイプライン化とかいうところまで考えた再整備をやっていくのもいいのかなと思います。それから、畑地の再整備のほうも併せて検討して頂ければと思います。

従前の基盤整備の段階で整備された農道等は時代にマッチしていったのではないかとこのところも多々見受けられますので、そういったところに目を向けていけばと思います。それから最後1点、昨年度から流域治水に取り組んでいると思えますけど、今年は九重町、由布市、宇佐市で田んぼダムの実証事業に大分大学と共に取り組むという事も予定されてますけど、ぜひ災害を未然に防ぐという事から考えますと来年度以降多面的機能支払い交付金を活用してそういったことにも取り組んでいただきたいと思っております。

## 8)

私は集落営農に関わっている立場からですが、経営体の減少というのが喫緊の課題という事で先行きが見えないような状況の中で、集落営農組織が農地を集積して守っていく方向性もだんだん難しくなっている状況です。

農地を集積しながら、良好な農地で作物を作っていこうという方向は変わらないのですが、そこで何をつくるかというのをもう少し具体的に決めてはどうでしょうか。

事務局の説明の中で品目別の中間評価が出てきましたけども、農協や行政とタイアップして、振興作物をさらに絞りこんでいくとか、それに対する支援などを示しながらビジョンを長期的に、シビアに検討すべきかと思います。絵にかいたような格好だけではなく現実をもう少し詰めることができればいいかなと思っております。

いずれにしても人口減少の中で農地の多面的機能を発揮するといっても、人がいないという現状で、支える組織を何か提案できるといいなどの思いもあるところです。ま

た SDGs の考え方も国も方向を示されていますので、そこでこの地域でこういった取り組みができるかという事と、もう一つ、新規就農や若い人達がくる中も、「儲かる農業」、「楽をする農業」、「スマート農業」という言葉も出てきてますが、そういった社会のシステムも進んでますので、従来の農業から脱皮するような事柄が出てくるといいかなと、事務局の話聞きながら感じたところです。

## 9)

農業委員として申しあげさせていただければ、このビジョンというものは日田独自のものですので、21 世紀を担う子供達の為に安心安全な食糧を提供できる農業であってほしいし、また地域に優しい農業ビジョンであるべきだと思います。

それともう一つ、資料の中で、品目別振興の目標指標に対する実績は、生産量が主に上げられていますが、これを見て、数値があがっていない品目はもしかしたら儲からないから上がっていないと見れるかもしれません。もう少し詳しく分析するために、もし生産額等出てくれば、いいのかなと思います。以前の資料も見ましたが、金額的なものは農業センサスしか出てきてませんので、新しい発想で分析していければいいのかなと思います。

## 10)

担い手にかかわってくることで 委員の方からは ICT 化を含めたところでの新しい取り組みの提案を受けました。事務局でも国や県の様々な事業をこの中でご紹介していくような形で、ビジョンの中の施策に結びつけて、実現できるようなビジョンにしていければと思っております。

そのあたりもう少し、数字だけではなくて、数字の裏に隠された理由があるのではないかと、委員の方の意見にあったようなお言葉もご紹介する形で、ビジョン作りが進めていければと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## (事務局)

委員のお話にありました、県の非常事態宣言に伴う生産者へのアンケートについては、是非、市も連携させていただきたいと考えております。ビジョンの改定に向けて、スケジュール感がありますので、全てを盛り込むということはできないかもしれませんが、極力反映させていきたいと考えておりますので、またそこは連携をとらせていただきたいと思っております。

それと、委員から、品目別の指標が生産量だけになっており、販売額がないというようなお話がありました。確かに、生産量がのびていけば、イコール販売額が伸びていくのかというところもあるかと思いますが、私たちも、統計を取るうえで把握できるものは農協さんから頂いている数字でございまして、販売額等になりますと、なかなか情報

として出てこない分もありますので、そこは両農協さんとも連携とらせていただきたいと思います。

あとは皆さんから言っていただいた安心・安全な農業であるとか、自然に優しい農業などの部分については、また部会の中で検討してまいります。先ほど皆様から頂いた意見を踏まえながら専門部会にあげて資料作成に移っていきますので、宜しくお願ひ致します。

## 7. その他

特になし。

## 8. 閉会（事務局）